

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地							
日本電子専門学校		昭和51年9月10日		船山 世界		〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地							
学校法人電子学園		昭和38年12月17日		多 忠貴		〒 169-8522 (住所) 東京都新宿区百人町一丁目25番4号 (電話) 03-3363-7761							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度							
工業	工業専門課程	Webデザイン科		平成18(2006)年度	-	平成25(2013)年度							
学科の目的		クライアントの要求に応じた商用のWebサイトを制作できる実践的なWebクリエイター(Webディレクター、UI/UXデザイナー、フロントエンドエンジニア、Webプログラマー)の育成を目的としています。											
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		<p>【取得可能な資格】 色彩検定/情報デザイン試験/ウェブデザイン技能検定/ビジネス能力検定(B後)</p> <p>【中途退学の状況】 令和4年4月1日時点において、在学者73名(令和4年4月1日入学者を含む) 中退率: 7% 令和5年3月31日時点において、在学者68名(令和5年3月31日卒業者を含む)</p>											
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技					
2年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入	1,710 単位数時間	420 単位数時間	240 単位数時間	1,050 単位数時間	0 単位数時間	0 単位数時間					
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)									
60人	76人	18人		24%									
就職等の状況	■卒業者数(C)		32	人									
	■就職希望者数(D)		30	人									
	■就職者数(E)		29	人									
	■地元就職者数(F)		29	人									
	■就職率(E/D)		97	%									
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100	%									
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		91	%									
	■進学者数		1	人									
	■その他												
	就職指導の体制は、キャリアセンターが、業界の求人獲得に努め、合同企業説明会や校内入社試験を実施している。各クラス担当のキャリアサポーターとクラス担任を中心とした、組織的な学生指導体制による就職指導を行っている。 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)												
■主な就職先、業界等		<p>クレッセント、フンゴジュウゴ、イマージュ、ワーキングヘッズ、サンシアア、ミツイエリンクス、AZURE・PLUS、LULL、ペルーナ、キヨミル、UNITZ、テレサイト、キノロープ、ryzon、メテココンサルティング、カレンティア、カークスウィル、ノット、BRISK、ヤング・コミュニケーション 等 Web業界</p>											
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:有 ※有の場合、例えば以下について任意記載		評価団体: 特定非営利活動法人 職業教育評価機構		受審年月: 令和5年3月31日		評価結果を掲載したホームページURL		<a href="https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation/">https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/third-party-evaluation/</a>				
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.jec.ac.jp/course/mobile/aw/">https://www.jec.ac.jp/course/mobile/aw/</a>												
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)												
	総授業時数		1,710 単位数時間		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		270 単位数時間		うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位数時間		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち必修授業時数		1,710 単位数時間		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		270 単位数時間		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位数時間		
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位数時間										
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B: 単位数による算定)												
	総授業時数		単位数		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位数		うち企業等と連携した演習の授業時数		単位数		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち必修授業時数		単位数		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位数		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位数		
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位数										
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3人								
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人								
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人								
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		1人								
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人								
	計				4人								
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				4人									

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会は、卒業生の就業先の業界における人材の専門性に関する動向、国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などを十分に把握、分析した上で、本校の専門課程の教育を施すにふさわしい授業科目の開設または授業内容・方法の改善・工夫等を行うなど、専攻分野に関する企業、関係施設、関係団体等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するための検討課題を協議・検討することを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育の管理部署(教育部、教務部)と各学科に対して中立的な位置付けとし、実践的な教育を行うために、経営や教育現場からの制約を受けない自由な検討が行えるものとする。

尚、教育課程の編成については、以下の過程に基づいて決定する。

- ① 学科教員により、今後の教育課程について検討し改善案を作成する。
- ② 教育課程編成委員会にて、学科からの改善案について各委員の専門的知見に基づく意見を伺う。
- ③ 教育課程編成委員会での意見を踏まえ、学科長及び教育部長を中心に最終案を作成し、校長の決済で決定する。
- ④ 次の教育課程編成委員会にて、最終決定した教育課程を各委員へ報告する。

上記の教育課程を決定する過程については、学校関係者評価委員会においても報告・評価の対象とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	①
久山 和宣	株式会社 ベースメントファクトリープロダクション	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	③
船山 世界	日本電子専門学校 校長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	
杉浦 敦司	日本電子専門学校 副校長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	
大川 晃一	日本電子専門学校 エンジニア教育 部長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	
高橋 陽介	日本電子専門学校 学事部 部長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	
井上 直樹	日本電子専門学校 キャリアセンター センター長	令和4年10月1日～ 令和6年3月31日	
小山内 靖美	日本電子専門学校 Webデザイン科 学科長	令和4年4月1日～ 令和6年3月31日	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会は、原則として学期の切り替え時期(9月)及び、年度末(3月)の年2回は、必ず開催する。また、業界動向の変化や学科の状況等により、必要性に応じて適宜開催する。

(開催日時(実績))

第1回 令和4年9月9日 14:00～16:00 開催

第2回 令和5年2月24日 14:00～16:00 開催

## (5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

### 【議題1】

2003年度の学科設立以来、実習室をWindowsのメインプラットフォームで整えてきました。

現在、本科実習室用のマシンとして、下記の3種類のPCを使用しています。

- ①DELL Inspiron15 5570 60台【スペック】Intel Core i7、メモリ:8GB、SSD:256GB、HDD:1TB
  - ②DELL Inspiron15 3593 15台【スペック】Intel Core i7、メモリ:8GB、SSD:512GB
  - ③DELL Inspiron15 5502/5509 12台【スペック】Intel Core i7、メモリ:16GB、SSD:1TB
- 今後、マシン環境を揃えていくタイミングで、MacとWindowsどちらがよいか悩んでいます。それぞれ、良いところも問題もありますが、次年度はMacを視野に入れて購入検討をしている最中です。現場での制作環境も踏まえてどちらがお勧めか？アドバイスをお願いいたします。

### 【意見】

- ・社内ではBoot campは利用せずに、VMwareやVirtualBoxなどを利用し旧WindowsOSの環境を構築して対応している。
- ・サーバー系エンジニアはLinux環境が使用できることもありMacを利用している。
- ・Macは高価なので、学校で補助制度を作り、学生の教材として購入するようにはどうか。
- ・仕事面では業務に支障があってはならないため、常に最新のハイスペックPCを導入している。
- ・学校ではすぐに買い替えるものではないので、購入するのであればハイスペックPCを選択した方が良い。
- ・学生が学校という学びの場に居なくなるハイスペックPCを整え、その環境の中で学生同士が学び合う機会が生まれる。
- ・日本電子専門学校は全体的に校舎や設備を整えているので、教育効果をさらに高めることを考慮したハードウェア環境を整えた方が良い。

### 【活用】

以前よりデザイナーを中心にMac環境を利用し、エンジニアはWindows環境を中心に開発を進めていると思っておりましたが、エンジニアも開発環境の利便性の高さや、Linux環境を利用できることによりMac環境を使用していることが分かりました。

また、学生の学習意欲の向上、学び合う機会、制作能力向上を行うためにも、ハイスペックPCを備えた実習環境であることも改めて感じました。次年度の予算の承認が得られたので、年度末に1クラス分(40台)をMac環境で整える予定です。

### 【議題2】

2023年度スタート前に、1クラス分のMacPC40台を購入する予定ですが、この場合、従来のWindowsPC42台(下記①②③の3種類)と新規のMacPC40台が揃った場合、どのように運用したほうがよいと思われますか？

現在、本科実習室用のマシンとして、下記の3種類のPCを使用しています。

- ①DELL Inspiron15 5570 60台【スペック】Intel Core i7、メモリ:8GB、SSD:256GB、HDD:1TB
- ②DELL Inspiron15 3593 15台【スペック】Intel Core i7、メモリ:8GB、SSD:512GB
- ③DELL Inspiron15 5502/5509 12台【スペック】Intel Core i7、メモリ:16GB、SSD:1TB

学科で4つのケースを考えてみましたが、それぞれ運用・管理を考えると懸念事項(→印)もあります。ご意見・アドバイスをお願い致します。

- ①1年生(Mac)、2年生(Windows)に分けて運用。その逆もあり。  
→年度末(3月)のPCの環境設定の負荷が大きくなる。Windowsサーバーも新規購入予定。
- ②使いたいPCを学生に選ばせる。  
→AppleID、Microsoftアカウント、AdobeIDの管理  
→学生とPCの関連が不透明になる。
- ③授業ごとに分けて運用。(UI/UX授業ではMac、HTML&CSS、サーバーサイドプログラム授業ではWindowsなど)  
→学生とPCの関連が不透明になる。
- ④Macは、771教室に固定設定。Windowsは貸出用にする。  
※平日は学校のロッカー管理。土日祝日は貸出可にする(従来の形に戻す)  
※コロナ前は、Windowsマシンに統一されており学生の希望者に貸出。

### 【意見】

- ・PCはパーソナルなものなので1人1台端末を実施していないことに違和感を感じる。1人に同じPCを卒業まで使用し続けて運用した方が良い。
- ・学校側で事前にPCセットアップを行うのではなく、利用する学生それぞれに、自分のマシンをセットアップさせ、学ぶ機会を与えたほうが良い。または、先輩が後輩にPCの環境の整え方を指導することも良いと思う。
- ・授業内容に問題が無いのであれば、年度や学年によってPCやOS種類が異なっても良いと思う。
- ・ライセンス運用において、GoogleアカウントやAdobeアカウントなどを統一した方が良い。

### 【活用】

・2023年度スタートにあたり、下記のマシンを43台購入。2年生に新マシンを割り当てて、新1年生には購入4年目のPCとなる従来使用しているWindowsマシンを使用します。

- ①13インチMacBook Pro(型番:MNEH3J/A) 43台
- ②24インチiMac Retina 4.5Kモデル(型番:MGPC3J/A) 1台(サーバー用)

・例年であれば教員がメンテナンスチームとともにマシンの設定を行っていましたが、今年度は、授業スタート前の準備教育期間(JecWeek)にその作業を完了させ、授業開始前にマシンの設定を行っていただきます。

## 2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

### (1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

Web業界で活躍できるWebクリエイター育成のために、下記を踏まえた実習を企業と連携して行い、Web業界で必要なディレクションやWeb制作技術などの実践的能力を養うことを基本方針とする。

- ①クライアントの要望をヒヤリングするためのオリエンテーションから企画制作、モックアップ(外観デザインの試作)、最終の各段階で企業へのプレゼンテーションを実施し、コミュニケーション能力の向上につなげる。
- ②クライアントの要望に応じた企画立案ができるように、授業と実習を通してWeb制作会社で行われているマーケティング・調査分析の仕方について実践的な知識を習得する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容  
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

① Web制作企業から実案件(クライアントの要求)を元に課題が提示され、Webワークフローの基づいて、企画提案・モックアップ制作・Webサイト実装・プレゼンテーションの実務能力を学ぶ。企画・モックアップ、実装、最終のフェーズごとにクライアント企業様にプレゼンテーションを行い、企業から指導を受けながらWebサイト制作を行う。

② コミュニティサイトを運営する企業から既存サイトを使った課題が提示され、ユーザビリティ評価、マーケティング観点より既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
進級制作	Web制作企業4社から実案件(クライアントの要求)を元に下記の課題から1人1課題を選択。 ①KDDIウェブコミュニケーションズオフィス紹介スペシャルサイト制作 ②ペットショップ「PetPlus」のスペシャルサイト制作 ③ウォーターサーバー販促新規サイト制作 ④キャリアデザインセンター新卒採用サイト制作 ⑤江の島マリナー「サンカフェ」特設サイト制作 企画・モックアップ・実装までのWebワークフローを通して実務能力を学ぶ。各ステップごとに企業から指導を受けながらWebサイト制作を行う。	①株式会社KDDIウェブコミュニケーションズ ②株式会社カレンティア ③株式会社Aegis ④株式会社ビットエー ⑤株式会社ガジェログ
ユーザビリティ&アクセシビリティ実習	以下2つの課題に取り組む。 【課題1】 自社運営している事業サービス下記2サイトを元にチームでユーザビリティ評価手法を用いて既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。 ①カラオケパセラの「お祝い誕生日コース」ページ <a href="https://www.pasela.co.jp/birthday/">https://www.pasela.co.jp/birthday/</a> ②カラオケパセラ「# 本人不在の誕生日会」ページ <a href="https://www.pasela.co.jp/oiwai/">https://www.pasela.co.jp/oiwai/</a> 最終プレゼンでは、企業から評価アドバイスのフィードバックを受ける。 【課題2】 「若年層の無印良品ファンづくり」 若年層(20代以下)が無印に興味を持ってファンになってもらえる仕組みや仕掛けは何か?をチームで考え、企画、UI提案からモックアップ、プロトタイプについて発表し、企業から評価アドバイスのフィードバックを受ける。	【課題1】 株式会社NSグループ 【課題2】 株式会社良品計画

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教育課程編成委員会での意見やWeb業界の動向等を踏まえて、現在教員に不足している知識、技術、技能及び、教授法や教育的資質に関する下記①～③等の研修を、教員研修規程に則って行う。これまでは、Web制作関連団体が行っている研修の受講が主であったが、将来はWeb制作会社や団体から講師を招いたものや教員がWeb制作企業内で制作業務を担当するなど、Webデザイン科独自の研修なども計画的に行う。

① 今後も益々利用者のネット環境が多様化・複雑化しているなかで、ユーザーに最適なWebサイトを制作するのに必要な最新の知識、技術、技能に関する研修。

② 多くのWeb制作会社が注目しているユーザーが体験を通して新しい価値を生み出す「ユーザエクスペリエンス」の必要性と、それらを向上するための知識、技術、技能に関する研修。

③ 変化する学生(気質)に対応し、学生の学習意欲を高めるような、キャリアサポートや体験学習(ファシリテーションスキル)等の教育的資質に関する研修。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	企画書・プレゼン講座	連携企業等:	株式会社宣伝会議
期間:	2022年9月9日	対象:	学科教員
内容:	企画書・プレゼンのセオリーを学びながら、セオリーを破り、ライバルの企画と差をつける企画書とプレゼンのテクニックを学ぶ		
研修名:	Adobe XD	連携企業等:	Udemybusiness
期間:	2022年11月8日	対象:	学科教員
内容:	Adobe XDを使ってUI/UXプロトタイプングのスキルを身につける		
研修名:	2023年のWebデザイントレンド 解説セミナー	連携企業等:	株式会社ミツエーリンクス
期間:	2022年12月14日(水)	対象:	学科教員
内容:	I部 エンジニア視点から注目のデザイントレンド/II部 デザイナー視点から注目のデザイントレンド		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「教授法研修」	連携企業等:	株式会社ビーフォーシー
期間:	令和4年7月29日・8月4日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等:	株式会社ウチダ人材開発センタ
期間:	令和4年8月2・5日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「教授力向上研修(CompTIA CTT+)」	連携企業等:	株式会社ウチダ人材開発センタ
期間:	令和4年10月26・27日、12月26・27日	対象:	中堅教員
内容	CompTIA CTT+に準拠し、インストラクションに関する学び(授業力強化)と資格取得を目的とした研修。		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	デザイン思考、ペルソナ、シナリオ、UI、UX	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和5年4月	対象:	学科教員
内容	Webサイト制作の上流工程に必要な知識、Web・UX・UI・製品・サービスのデザインに使えるデザイン方法の習得		
研修名:	SDGs、社会課題解決、ビジネス創出、未来共創イノベーション、スマートシティ	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和5年4月	対象:	学科教員
内容	SDGs17のゴールについての知識。SDGsをビジネスに活かす。都市の抱える諸課題、社会が抱える課題を考え、ICT等の新技術を活用した現状を習得		
研修名:	JavaScriptフレームワーク	連携企業等:	株式会社フルネス
期間:	令和5年8月	対象:	学科教員
内容	JavaScriptライブラリーであるReact(React.js)を使用したアプリケーション開発の習得		
研修名:	TypeScriptの研修	連携企業等:	株式会社カサリアル
期間:	令和5年8月	対象:	学科教員
内容	TypeScriptの基礎の習得		
研修名:	プロジェクトマネジメント、マーケティング、ブランディング	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和5年8月	対象:	学科教員
内容	ブランドコミュニケーション戦略の知識の習得		
研修名:	Webのトレンド、先端技術	連携企業等:	ミツエーリンクス
期間:	令和5年12月	対象:	学科教員
内容	VR・AR・MR、IoT、コミュニケーションロボットとインタラクション、サービスデザインの方法を習得		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「教授法研修」	連携企業等:	株式会社ビーフォーシー
期間:	令和5年8月3日・8月10日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「インストラクショナルデザイン研修」	連携企業等:	株式会社ウチダ人材開発センタ
期間:	令和5年8月22日	対象:	新人教員
内容	授業を実施する上で、その前提となる授業設計等に関する知識を体系的に学ぶ。科目内容の見直しやシラバス作成における授業設計に関する知識技能を修得する。		
研修名:	「アカデミックハラスメント」	連携企業等:	名川・岡村法律事務所
期間:	令和5年9月1日	対象:	全教員
内容	学生に対するハラスメントと実際の裁判例から学ぶハラスメントの具体例		

研修名: 「高等教育における ChatGPTなど生成AI の活用」

連携企業等: 専門学校コンソーシアムTokyo

期間: 令和5年9月14日

対象: 全教員

内容 高等教育における生成AIの活用方法と事例について

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校では、卒業生、保護者、高等学校教員、画像情報関係団体、地域住民、Web制作企業等、本校の関係者を評価委員として、学校関係者評価委員会(以下、評価委員会という。)を組織する。評価委員会では、本校の自己評価報告書にもとづき、学校の運営状況やWebデザイン科の教育状況、目標達成度、進路の状況、卒業生の産業界での活躍等、教育活動に関する自己評価結果を報告する。評価委員より、自己評価結果の評価を受け、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、Webデザイン科への理解促進や連携協力による今後の運営や教育の改善等を図ることを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育人人材像の周知、職業教育の特色、将来構想、学科教育目標
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、組織・意思決定機能、人事規程、教育活動の成果公開、情報システム化
(3) 教育活動	教育目標・育人人材像、教育達成レベル、実践的なカリキュラム、業界関連科目目標、キャリア教育、授業評価、職業教育、教員確保・育成、成績・単位基準、資格指導體制
(4) 学修成果	就職率、資格取得、ドロップアウト対策、卒業生・在校生の活躍、キャリア形成と教育改善
(5) 学生支援	就職指導體制、学生相談体制、学費支援体制、学生生活・健康管理、課外活動支援、父母会、卒業生支援、関連分野と業界関係
(6) 教育環境	施設設備環境の維持・向上、学外実習・インターンシップ・海外研修体制、防災訓練
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動、教育成果の公表、入学選考、学納金、資格・就職情報公開
(8) 財務	中・長期財務計画、予算・決算・収支計画、定期的な会計監査、事業(財務)情報公開
(9) 法令等の遵守	法令・設置基準の遵守、個人情報保護、自己点検・評価、自己評価・第三者評価の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	学校施設の教育資源の貢献、学生ボランティア活動支援
(11) 国際交流	留学生の受け入れ戦略、留学生の在籍管理と手続き、留学生の学修・生活支援体制、学習成果の発表

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

コロナ禍による活動制限は仕方がないが、今後はその状況を踏まえた教育の在り方を考える必要があり、コロナ禍を理由にした教育活動の停滞を避けなければならないとの指摘を受け、下記の対応を行った。

教育的成果の向上に繋げるため、様々な感染症対策を講じた上で対面による教育活動へ戻す学事計画とした。また、遠隔授業の利点を活かした教育も継続し、今後の感染症禍にも対応できる授業体制とした。

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
鈴木 周祐	株式会社びえろ	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	企業
井沢 祐	株式会社ファンコーポレーション	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	企業
木下 幸弘	株式会社ジェイスリー	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	企業
舟山 大器	株式会社横浜環境デザイン	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	企業
渡邊 登	合同会社ワタナベ技研	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	企業
相原 弘明	ストーンビートセキュリティ株式会社	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	企業
伊藤 好宏	JTP株式会社	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	企業
篠原 たかこ	CG-ARTS 公益財団法人画像情報教育振興協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
満岡 秀一	一般社団法人 IT職業能力支援機構	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
原 洋一	一般社団法人ソフトウェア協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
米井 翔	一般社団法人組込みシステム技術協会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
西郷 直紀	東京商工会議所新宿支部	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	職能団体
品田 健	聖徳学園中学・高等学校	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	高校教員等
横田 えりか	株式会社ウィザス	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	高校教員等
会田 由紀子	東京ギャラクシー日本語学校	令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	日本語学校
谷 伸城	株式会社アプリケーションプロダクト	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	卒業生
中山 秀昭		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	卒業生
原田 識義	百人町西町会	令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	地域住民
大山 宗良		令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	父母
高橋 美登里		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	父母
岸本 美香		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	父母
岡本 沙織		令和3年5月1日～ 令和6年4月30日	在学生
宮下 好葉		令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	在学生
水山 颯香		令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	在学生
森 碧大		令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	在学生
武藤 遼河		令和4年5月1日～ 令和6年4月30日	在学生
福田 るあ		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	在学生
渡邊 紗羽		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	在学生
江藤 海羽		令和5年5月1日～ 令和7年4月30日	在学生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他( )

URL: <https://www.jec.ac.jp/school-outline/disclose/stakeholder-assessment/>

公表時期: 毎年10月1日に更新

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

理念・育人人材像といった教育的目標から施設設備・財務状況といった学校運営に至るまでの情報をホームページや入学案内書などの冊子に掲載するとともに、Webデザイン科の教育成果として、前期は「授業成果発表会」を、後期は、「進級・卒業作品発表会」に来場を促し、学科ブログで学科での取り組みを広く公開することによって、在校生・保護者、高等学校、卒業生が活躍する企業・業界、学校近隣の住民など、関係者の理解を深め連携及び協力の促進に資するために、積極的に情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	本校について、教育理念、校長名、沿革
(2) 各学科等の教育	学科紹介、カリキュラム、時間割
(3) 教職員	組織図、教職員人数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	教育の仕組み、キャリア教育、産学連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、エクステンションプログラム、施設
(6) 学生の生活支援	就職サポート、学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費サポート、納付金・時期、独自の奨学金制度
(8) 学校の財務	貸借対照表、資金・消費収支計算書
(9) 学校評価	自己点検評価、学校関係者評価、第三者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.jec.ac.jp/>

公表時期: 毎年4月に更新



授業科目等の概要

(工業専門課程 Webデザイン科) 令和5年度															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○		就職活動リテラシー	ワークシートやグループワークを利用した体験型学習で、楽しみながら就職活動の準備を行う。 ① キャリア（職業人生）を理解して就職活動の動機を得る。 ② ワークショップ形式で自己分析を行い、就職活動で実際に使えるツール（文章・台本）に仕上げる。 ③ 就職活動に必要な各種情報を得る。	1前	30	2	○	△		○			○	
2	○		企画書制作&プレゼンテーション	目的に沿ったリサーチから発表までを通じ、企画書の作り方とコミュニケーション手段としてのプレゼンテーション手法を学ぶ。	1前	60	4	○	△		○			○	
3	○		Webデザイン技法	Webサイトを作る上で必要なサイトの種類や特徴、サイト設計、情報整理、ページデザイン、画像と色彩、レイアウトなどの基本的なWebデザイン知識を学ぶ。	1前	30	2	○	△		○		○		
4	○		チーム制作 I	信頼や責任を基本にメンバーシップとしてのチームへの関わり方を学びます。チームで主体的に高めるスキルを修得します。	1前	30	2	○	△		○		○		
5	○		HTML&CSS実習	W3C規格に準拠したHTMLコーディングを理解し、Webサイトを制作する。 Web標準実装の際に抑えておくべきポイントやノウハウ、サイト作成ソフトウェア（Dreamweaver）の活用テクニックを習得する。 (使用アプリケーション： Atom, SublimeText, Dreamweaver)	1前	120	4	△		○	○			○	
6	○		色彩演習	ヴィジュアル表現における色の役割や色彩に関する基礎的な知識を身につけ、感情や状態を色で表す演習等を行う。色彩検定の取得を目指す。	1前	30	2	○			○			○	
7	○		UI・UX実習	ペイント系ソフトウェア（Photoshop）の基本操作を習得し、フォトタッチやWeb画像素材の制作、Webページデザインの制作を行う。また、ドロー系ソフトウェア（illustrator）の基本操作を習得し、ベクトル画像の制作について習得する。 (使用アプリケーション：Photoshop, Illustrator)	1通	120	4	△		○	○			○	
8	○		JavaScript実習	ブラウザ側で動作するプログラミング言語であるJavaScriptを用いてプログラミングの基礎を学び、ページを動的に表現する演習を行う。 JavaScriptを使ったWebページにあるふるまい（動き）の作成方法やJavaScriptライブラリの活用方法について学ぶ。	1通	90	3			○	○		○		

9	○		イラストレーション	イラストを描く上での基礎的な画材や紙の扱いを学習し作品を制作する。さらに平面や立体など既成概念にとらわれない様々な技法を学び、オリジナリティーあふれる作品の制作を目指す。	1 通	60	4	△	○	○	○	○	
10	○		サイト設計	Webサイト構築のワークフローと、Webサイトを制作する過程でつくられる各種ドキュメントの作り方について演習を通して学ぶ。	1 後	30	2	○	△	○	○	○	
11	○		Webアプリケーション制作 I	HTML&CSS&JavaScriptを使ったWebアプリケーションの作り方を学ぶ。HTML5ハイブリッドアプリ開発プラットフォーム「Monaca」を使用。	1 後	30	1			○	○	○	
12	○		情報デザイン I	人間中心デザインの考え方に即したWebデザイン設計をワークショップ形式で学ぶ。人間中心設計の概念やプロセスを学び、人間中心デザインに関するさまざまな手法の理解と実践方法の修得を目指す。発想からコンセプトデザイン手法、コンセプトやユーザー評価の方法まで、体系的に、演習を通して実践的に学ぶ。	1 後	90	5		○	△	○	○	
13	○		進級制作	連携しているWeb制作会社から実案件（クライアントの要求）を元に課題が提示され、オリエンテーションから企画、制作、プレゼンテーションまでの一連の流れを学習する。Webワークフローを通して、実務能力・技術力・表現力を身につける。	1 後	120	6	△		○	○	○	○
14	○		写真撮影・映像演出技法	カメラの使い方、写真撮影に関する知識を学び、広報誌やWebサイトに使用される写真を撮影するための実践的なテクニックを学ぶ。	1 後	60	4	△		○	○	○	
15	○		Webライティング技法	Web媒体を活用した伝わる文章を理解しライティングスキルの必要性を理解する。閲覧者にとって読みやすい文章、わかりやすい文章の書き方について演習を通して学び、人に伝わる文章を学習する。	2 前	30	2	△	○		○	○	
16	○		Webアプリケーション制作 II	Webアプリの企画から制作をチームで行う。ソースコードなどをチームで履歴を共有し制作するためにGitサービスを利用する。 HTML5ハイブリッドアプリ開発プラットフォーム「Monaca」を使用してWebアプリを制作。	2 前	90	3			○	○	○	
17	○		情報デザイン II	①情報デザイン試験の取得を目指す。 ②インタフェースおよびインタラクションのデザイン手法について学ぶ。	2 前	60	3		○	△	○	○	
18	○		チーム制作 II	目標達成に向けてメンバーを率先垂範する「リーダー」としての役割を学び、チームマネジメントのあり方をワークを取り入れながら実践的に学びます。	2 前	30	2	○	△		○	○	
19	○		ユーザビリティ&アクセシビリティ	企業課題をチームで問題解決を行う。 ① ユーザビリティ評価手法を用いて既存のサイトの問題点を洗い出し改善提案を行う。 ② 視覚障害者支援団体の協力を受けて、Webアクセシビリティの現状と問題点の理解を深める。 ③ UXを考慮したサービスデザインの提案	2 前	150	8	△		○	○	○	○

20	○		サーバーサイドプログラミング I	サーバーサイドプログラムであるPHPプログラムをPCで動かすための環境を整え、掲示板等を作りながらPHPプログラミングについて学ぶ。同時にデータベース(MySQL)を使った実践的な課題を行う。(Apatch, PHP, MySQL)	2 前	60	2				○	○	○
21	○		卒業制作	2年間の集大成として、Webを商用で必要としている企業や店舗、学校などをクライアントとし、学生個々の制作ジャンル(Webサイト、スマートフォンアプリ、Webシステム、ゲーム等)に沿った作品を制作する。クライアントの要求に応じて、事前調査、コンセプトメイキング、企画書制作、ユーザービリティ評価、確認、納品、最終プレゼンなど、実践的なWebクリエイターとして、一連の制作工程を踏まえた制作を行う。	2 後	150	6				○	○	○
22	○		関連法規	Webデザイナーに必要な法律知識を学ぶ。著作権をはじめとする知的所有権、個人情報法、刑法の業務妨害などについて、報道等で取り上げられた裁判の事例を交えて学ぶ。	2 後	30	2	○				○	○
23	○		Webマーケティング	Webマーケティングを取り巻く外部環境・市場動向や、ソーシャルメディア連携などによるWebマーケティング、企業におけるソーシャルメディアの活用方法などWebサイトの戦略的なビジネス活用について学ぶ。	2 後	30	2	○				○	○
24	○		Webディレクション	スケジュール管理、リソース管理、コスト管理、運用管理などを含めて成果を上げるディレクションの仕方について学ぶ。	2 後	30	2	○				○	○
25	○		広告デザイン	印刷メディアの広告表現デザインや、CMなどの広告映像の表現、Webを使った広告表現など実際の広告具体例を見ながら広告の表現技術を学ぶ。	2 後	30	2	○				○	○
26	○		サービス運用	解析ツールを活用しながら、アクセス状況の分析の仕方を修得し、Webサイトの価値向上と運用効率の向上などの提案ができる実務能力を学ぶ。	2 後	60	2	○	△			○	○
27	○		サーバーサイドプログラミング II	CMSツールWordPressをサーバーにインストールする方法から、サイト構築のやり方を実践的に学ぶ。また、CakePHP、Laravelを使って簡単なオブジェクト指向スクリプト言語を習得する。	2 後	60	2				○	○	○
合計						27 科目		1710 単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 試験、提出課題、平常点を加味した成績評価において、全ての科目で「可」以上		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学科・クラス毎に定められた時間割に則って履修する。		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。